

弘前市学校給食審議会  
令和4年度第1回会議資料

(1) 弘前市の学校給食実施状況について



令和4年8月31日  
弘前市教育委員会学務健康課

～ 目次 ～

弘前市の学校給食の経緯	1
I 給食の概要	2
II 給食センターの概要	
1 施設・設備	3
2 給食センターの職員構成	3
3 給食センターの配送校一覧	4
III 自校方式給食の概要	4
IV 食物アレルギー対応食について	5
V 給食内容について	5
VI 調理作業行程の概要(センター例)	6
VII 衛生管理について	7
VIII 学校給食費について	7
IX 栄養教諭・学校栄養職員による「食に関する指導」	8
弘前市学校給食の沿革	9

## 弘前市の学校給食の経緯

当市の学校給食は、昭和9年に和徳小学校（旧和徳村）で欠食児童救済のために提供したのが始まりとされております。終戦後のララ物資（注1）、ユニセフ救援物資（注2）の配給を経て、昭和26年2月には当時の市内全小学校（8校）及び盲啞学校で、完全給食の実施が始まりました。

その後、昭和43年に当時の市内全小学校（30校）での完全給食の早期実施と給食の合理化を図るため、弘前市立学校給食中央共同調理場（のち西部学校給食センター）を、平成11年4月には、給食の質的向上を目指し東部学校給食センターを建設し、2つの学校給食センターから給食を提供しました。

平成18年2月27日弘前市、岩木町、相馬村が合併し、旧岩木・相馬地区の小中学校7校は自校方式による学校給食を継続しました。

西部学校給食センターが老朽化したことや、旧弘前地区中学校の完全給食実施を目的に、平成22年茜町に新西部学校給食センターを建設し、8月より、これまでミルク給食であった旧弘前地区中学校と、自校方式であった相馬小学校及び津軽中学校が西部学校給食センター配送による完全給食となりました。この時点で自校方式は百沢小（H30.3月閉校）、相馬中学校、常盤野小中学校のみとなりました。

平成24年4月には、東部学校給食センターの調理業務を、また、平成26年4月には、西部学校給食センターの調理業務をそれぞれ民間業者に委託しました。なお、献立作成や食材購入は今までどおり市が行っております。

平成25年4月、食物アレルギー疾患のある児童生徒に対しても他の児童生徒と同じような学校給食を提供することで、本人や保護者が感じる不安、負担の解消を目的とした学校給食食物アレルギー対応食提供事業を開始しました。事業開始に伴い、相馬中学校調理室を西部学校給食センター相馬中学校分室とし、食物アレルギー対応食専用調理場としております。（相馬中学校は自校方式の補食給食から西部学校給食センター配送による完全給食となりました。）

令和3年10月からは、県との業務委託契約により弘前第一養護学校へ、令和4年4月からは、西目屋村との業務委託契約により西目屋小学校への給食の提供を開始しました。

現在は東部学校給食センター（小学校12校）、西部学校給食センター（市内小学校19校、市外小学校1校、市内中学校15校、養護学校1校）、自校方式（小学校1校、中学校1校）で給食を実施しております。



### 注1 ララ物資

LARA（アジア救済公認団体：米国の宗教団体・労働団体の連合体）からの救援物資

### 注2 ユニセフ救援物資

UNICEF（国連児童基金）は、世界157の国と地域で子どもたちの生存と健やかな発達を守るため保健、栄養、水と衛生、教育などの支援事業をその国のNGO、コミュニティと協力しながら実施している国連機関。この団体の救援物資

# I. 給食の概要

## 1 対象校

センター方式・・・・・・・・市内小学校 31校 ， 市外（西目屋）小学校 1校

市内中学校 15校 ， 養護学校 1校

自校方式・・・・・・・・小学校 1校 ， 中学校 1校

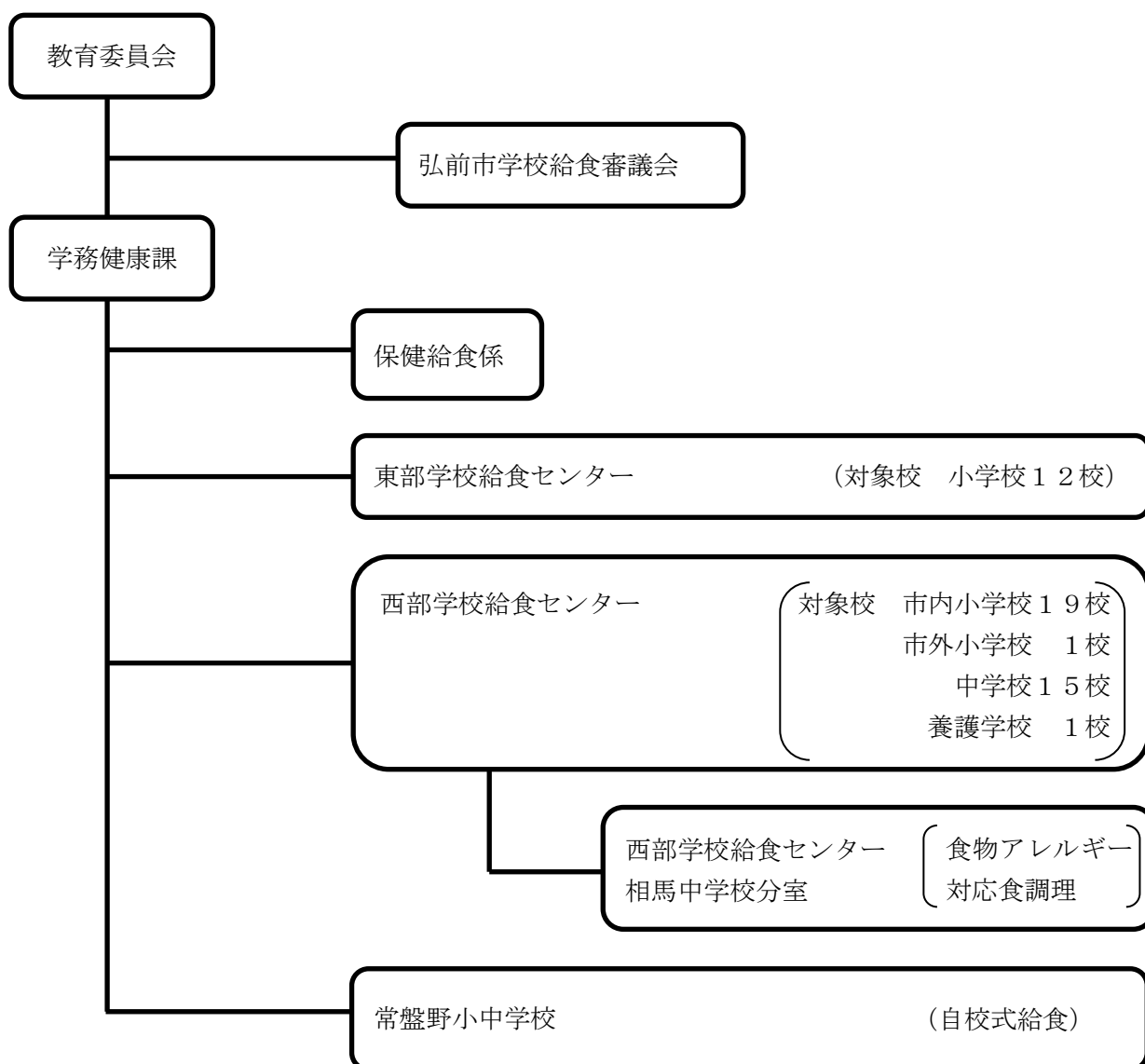
## 2 対象児童生徒数（令和4年5月1日現在）

センター方式・・・・・・・・市内小学校 6,609人 ， 市外（西目屋）小学校 74人

市内中学校 3,382人 ， 養護学校 46人

自校方式・・・・・・・・小学校 15人 ， 中学校 9人

## 3 管理・運営体制



## II. 給食センターの概要

### 1 施設・設備

センター名	《東部学校給食センター》	《西部学校給食センター》
所在地	弘前市大字末広一丁目3番地5	弘前市大字茜町三丁目3番地9
給食開始年月日	平成11年4月30日	平成22年8月24日
調理場方式	ドライシステム	ドライシステム
調理区分	米飯・副食	米飯・副食
最大調理能力	7,000食/日	9,000食/日
敷地面積	5,555.01 m <sup>2</sup>	13,270.93 m <sup>2</sup>
建物構造	鉄骨造・一部2階建て	鉄骨造・一部2階建て
建物面積	2,780 m <sup>2</sup>	4,528.07 m <sup>2</sup>
付帯施設	除害施設・車庫等	除害施設・車庫等
総事業費	1,917,734千円	2,113,002千円
調理・洗浄	業務委託	業務委託
施設維持管理	業務委託	業務委託
配送	業務委託	業務委託

### 2 給食センターの職員構成

	東部学校給食センター			西部学校給食センター		
	市・県職員	会計年度 任用職員	委託業者	市・県職員	会計年度 任用職員	委託業者
所長	1			1		
栄養士	2			4		
事務		1	1	1		2
調理			33			73
配送			7			17
ボイラー			1			1

(令和4年5月1日現在)

### 3 給食センターの配送校一覧

《東部学校給食センター》 公用配送車 8 台（うち予備車 1 台）			《西部学校給食センター》 公用配送車 18 台（うち予備車 1 台）					
1	城東小	282	1	自得小	65	1	新和中	76
2	福村小	345	2	高杉小	132	2	船沢中	47
3	豊田小	325	3	船沢小	85	3	東目屋中	52
4	堀越小	329	4	三省小	31	4	第一中	568
5	文京小	250	5	致遠小	372	5	第二中	381
6	千年小	293	6	小沢小	270	6	第三中	417
7	大和沢小	40	7	青柳小	41	7	第四中	357
8	時敏小	380	8	東目屋小	50	8	第五中	350
9	第三大成小	274	9	和徳小	233	9	石川中	54
10	松原小	220	10	城西小	189	10	北辰中	111
11	東小	352	11	朝陽小	160	11	裾野中	31
12	大成小	265	12	桔梗野小	275	12	南中	274
			13	石川小	142	13	東中	366
			14	西小	143	14	津軽中	236
			15	北小	273	15	相馬中	62
			16	裾野小	67	16	第一養護	46
			17	新和小	148			
			18	岩木小	474			
			19	相馬小	104			
			20	西目屋小	74			
合 計	12 校	3,355 人	合 計	20 校	3,328 人	合 計	16 校	3,428 人

（令和 4 年 5 月 1 日現在）

### Ⅲ. 自校方式給食の概要

学校名	児童生徒数	調理場方式※	調理員	栄養士
常盤野小・中学校	15 人（小） 9 人（中）	ドライ方式	会計年度 任用職員 2 名	会計年度任用職員 1 名

（令和 4 年 5 月 1 日現在）

#### IV. 食物アレルギー対応食について

平成25年4月から、食物アレルギー対応食提供事業を開始しました。アレルギー対応食専用の調理施設（相馬中学校内）においてアレルギー物質を除去、もしくは代替したものを調理し、専用容器に入れたアレルギー対応食は、各給食センターを経由し、他の児童生徒の給食と一緒に学校へ配送しています。

対応アレルギー物質	対象児童生徒数	調理場方式※	調理員	栄養士
卵、乳、小麦、そば、ピーナッツ、甲殻類(えび・かに)、魚卵(たらこ)、長いも・やまいも、さといも、もも、いか、たこ、いんげん、おくら、くるみ、魚(全般・青魚・練物製品・加工品)、キウイフルーツ、マンゴー、パイナップル、トマト、アーモンド、ごま	168人	西部学校給食センター 相馬中学校分室 (ドライ方式)	会計年度 任用職員 4名	会計年度 任用職員 2名

(令和4年5月1日現在)

##### ※ 調理場方式の「ドライ方式」について

ドライ方式とは、床を乾いた状態で使用し、床からの跳ね水などによる二次汚染を防止することができる給食施設のことを言います。一方、常に給食室が水で濡れた状態で調理する給食施設のことをウェット方式と言います。

学校給食衛生管理基準では「ドライシステムを導入するよう努めること。また、ドライシステムを導入していない調理場においてもドライ運用（ウェット方式であってもできるだけ水を落とさないようにすること、給食室を1日中乾燥した状態に保つことで汚染を防ぐ方法）を図ること。」としております。

#### V. 給食内容について

センター・学校名	給食内容※	主食（週当たりの回数）			おかず	飲み物
		ご飯	パン	麺		
給食センター	完全給食	炊飯4回	0.5	0.5	主菜 副菜	牛乳 ジョア りんご ジュース
常盤野小中学校	完全給食	炊飯4回				

(令和4年4月1日現在)

##### ※ 給食内容について

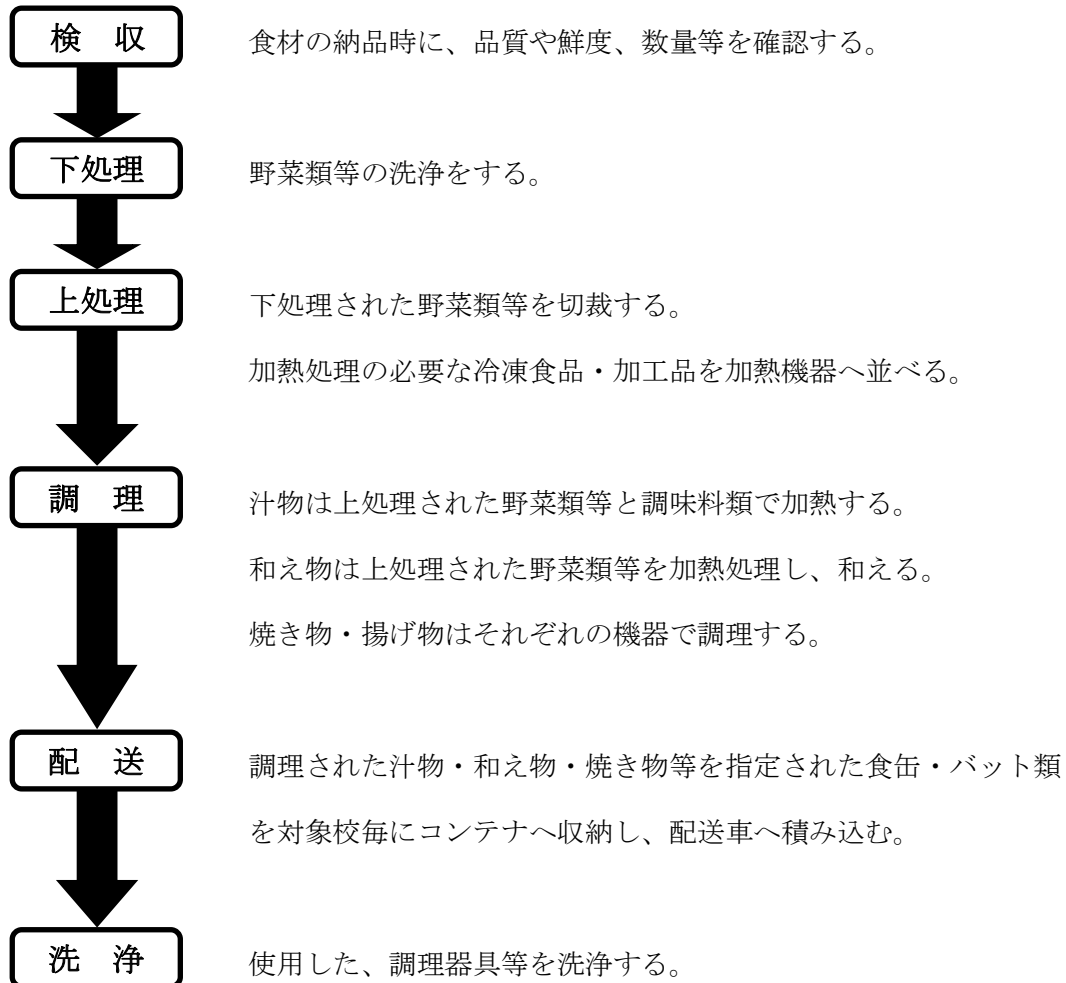
**完全給食** 給食内容がパン又は米飯（これらに準ずる小麦粉製品、米加工食品その他の食品を含む。）、ミルク及びおかずである給食

平成22年度以降、弘前市立の全ての小・中学校において完全給食となっております。

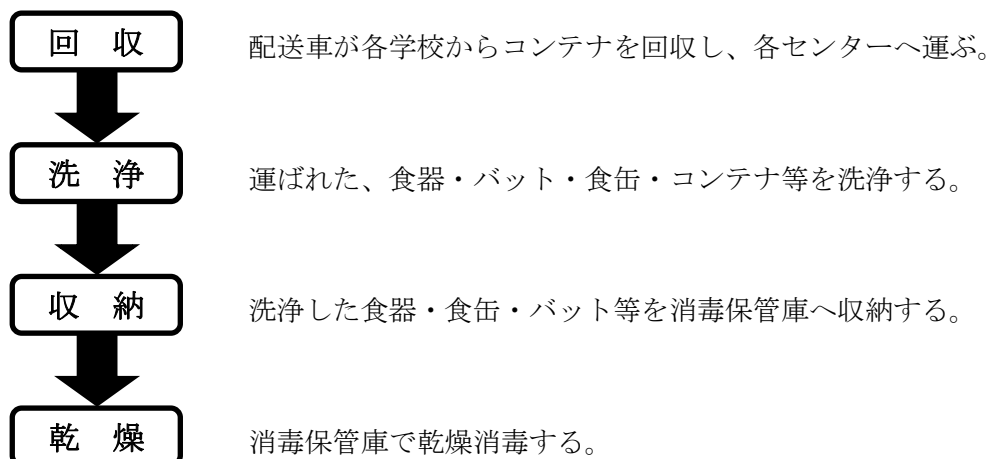
**補食給食** 完全給食以外の給食で、給食内容がミルク及びおかず等である給食をいう。  
(主食を持参)

## VI. 調理作業行程の概要（センター例）

### ○午前の部



### ○午後の部





## Ⅶ. 衛生管理について

弘前市では、文部科学省の定めた「学校給食衛生管理の基準」の遵守に努めながら下記について実施しております。

1. 作業工程毎の手洗いの実施
2. 作業工程毎の作業機器等の洗浄消毒
3. 食品の適切な温度管理
4. 水跳ね防止等適切な調理行程の確保による二次汚染の防止
5. 徹底した清掃の実施
6. 1ヶ月に2回の検便実施
7. 毎日行われる1人毎の健康チェック
8. 受配校の検食簿の徹底
9. 年2回の食材細菌検査及び調理器具類の細菌検査
10. 定期的な職員健康診断および研修

## Ⅷ. 学校給食費について

学校給食の実施に要する経費については、給食を調理・運搬するための経費（給食センターの施設維持管理費、人件費等）は市が負担し、給食にかかる食材費のみを「学校給食費」として保護者に負担していただいております。

現在の弘前市の学校給食費は、以下のとおりです。

調理場区分	学校区分	1食当たりの給食費
学校給食センター配送校	小学校	260円
	中学校	300円
自校式校（常盤野小中学校）	小学校	260円
	中学校	300円

## IX. 栄養教諭・学校栄養職員による「食に関する指導」

特別活動、家庭科、体育科（保健）の時間等に、栄養教諭や栄養士が学校へ訪問し、「食に関する指導」を行っております。

対 象	題 材	内 容
小・中学校	食物アレルギーについて	食物アレルギーや給食時の対応について知る
小学校 1 年	給食に親しもう	給食が出来るまでを学び、食事のマナークイズをすることで給食に親しむ心を育てる
	正しい手洗いをしよう	手洗い実技を行う
小学校 2 年	給食を大切に食べよう	給食の食べ方や後片付け、給食に関わっている人について考え、好き嫌いせず感謝して食べようとする心を育てる
小学校 3 年	おやつを上手にとろう	おやつの役割や目安量を知る
小学校 4 年	朝ごはんについて考えよう	朝ご飯をしっかりと食べるための工夫を考える
小学校 5 年	ふるさとの食材・郷土料理を大切にしよう	青森県の食材や郷土料理について考え、大切にしていこうとする態度を育てる
小学校 6 年	サンタマリアⅡ号に乗って旅に出よう	サンタマリアⅡ号で仮想の航海をしながら、限られた食材から料理を考える
	病気の予防	生活習慣病予防のために食生活を見直す
中学校 1 年	成長やスポーツと食事について考えよう	食事の役割、スポーツと食事の関係について知る
中学校 2 年	生活習慣病の予防について考えよう	生活習慣病について知り、調和のとれた生活と健康について考える
中学校 3 年	学力向上と食事について考えよう	学力アップの食べ方を知り、朝食について考える

## 弘前市学校給食の沿革

昭和	26. 2	完全給食実施 和徳小学校、朝陽小学校、第二朝陽小学校、城西小学校、第一大成小学校 第二大成小学校、時敏小学校、附属小学校、盲啞学校	
	29. 6	学校給食法制定	
	30. 3 4	中津軽郡清水村他 10 ヲ村が、弘前市へ吸収合併（小学校 31 校、中学校 16 校に拡大） 桔梗野小学校竣工、完全給食実施	
	31. 6	第三大成小学校竣工、完全給食実施（給食施設・設備費に初めて国庫補助金を受ける）	
	32. 8	南津軽郡石川町が弘前市へ合併（石川小、中学校各 1 校）	
	35. 3	千年小学校完全給食実施（合併村第 1 号）	
	38. 9	ミルク給食実施（完全給食実施小・中学校児童生徒、1 人 26 g 瓶装）	
	41. 4	脱脂粉乳から牛乳へ切り替え実施	
	42. 4	修斉地区学校給食共同調理場竣工（修斉小・中学校児童生徒に完全給食実施）	
	43. 8	弘前市立学校給食中央共同調理場竣工（修斉小を除いた全小学校児童に完全給食実施）	
	46. 8	修斉地区学校給食共同調理場を中央共同調理場へ統合、廃止	
	47. 4	草薙中学校完全給食実施 西小学校竣工、完全給食実施	
	51. 4	米飯給食開始 週 1 回（木）（52 年には水曜日に変更）	
	53. 3 4 9	廃水処理施設竣工（回転円板法） 米飯給食を週 2 回にする。（火、金） りんごジュース給食実施	
	54. 4	松原小学校竣工、完全給食実施	
	57. 4	東小学校竣工、完全給食実施 裾野中学校（修斉、草薙中学校統合）竣工、完全給食実施	
	平成	3. 4	北小学校竣工、完全給食実施 おにぎり給食実施
		4. 8	献立に合わせて先割れスプーンを配送
		11. 3 4	弘前市東部学校給食センター竣工 東部学校給食センター給食開始、同センターから米飯を配送（東部は偶数日、西部は奇数日） 中央共同調理場を「弘前市西部学校給食センター」に名称変更
13. 6		牛乳を瓶から紙パックへ全面変更	
16. 8		サラダ和え物用保冷食缶（バット）採用開始	
17. 4 8		給食配送車を公用車へ変更 牛乳パックリサイクル開始	
18. 2		中津軽郡岩木町、相馬村、弘前市が合併	
19. 4		岩木小学校、津軽中学校の委託米飯を東部学校給食センター炊飯、配送に変更	

平成	22. 4 8	新弘前市西部学校給食センター竣工（八代町から茜町へ移転） 新弘前市西部学校給食センター給食開始（旧弘前地区中学校及び相馬小学校の完全給食実施及び津軽中学校のセンター給食開始 岩木小学校の米飯配送を西部学校給食センターに変更）
	24. 4	東部学校給食センターの調理業務を民間業者に委託
	25. 4	給食センター配送校を対象に食物アレルギー対応食事業開始（相馬中学校調理室を西部学校給食センター相馬中学校分室とし、食物アレルギー専用調理室とする。相馬中学校は西部学校給食センター配送に変更）
	26. 4	西部学校給食センターの調理業務を民間業者に委託 弥生小学校閉校（船沢小学校に統合 西部学校給食センター配送校が34校となる）
	27. 8	岩木小学校が自校方式給食からセンター方式給食に変更（西部学校給食センター配送校が35校となる）
	28. 4	裾野小学校竣工 （修斉小学校、草薙小学校が統合 西部学校給食センター配送校が34校となる）
	29. 4	給食配送校の変更 （和徳小学校、北小学校が東部学校給食センターから西部学校給食センターに変更、東部学校給食センターが12校、西部学校給食センターが36校）
	30. 3	百沢小学校が閉校。自校方式給食が小学校1校（常盤野小）、中学校1校（常盤野中）となる
	令和	元.10
3.4		（新）新和小学校開校 （小友小学校、新和小学校、三和小学校が統合 西部学校給食センター配送校が34校となる）
3.10		業務委託契約により、弘前第一養護学校への給食提供開始
4.4		業務委託契約により、西目屋小学校への給食提供開始